

キャラクター名

プレイヤー名

シンドローム	ソラリス ノイマン		ワークス	レネゲイドビーイングD	カヴァー	試作型体調管理AI
オプション			年齢	3ヶ月(?)位	性別	一応女性型
覚醒	渴望	衝動	妄想	初期侵食率	36%	
出自	冬眠	経験	組織への所属	邂逅	保護者	

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	26
肉体	0	0	0	1		1	行動値	6
感覚	0	0	0	1		1	(非装備時)	6
精神	4	0	0			4	戦闘移動	11
社会	4	1	0			5	全力移動	22

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃			RC	1		交渉	4	1
回避	1		知覚			意志	1		調達	3	
運転:			芸術:			知識: 調理	3		情報: UGN	1	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
スノウドロップ	交渉	7r+5		1		コンセ+錯覚の香り+言葉の刃+封じ手 侵蝕+10 命中時対象に重圧

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ
エプロン (研究服相当)	8	1			<知識: 調理> の判定に+1 d (適用済み)

所持品	
応急手当キット	
ボイスチェンジャー	

合計装甲: 1 合計回避: 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タリ	消費
Dロイス:生還者	P	N		
研究者	P 遺志	N 不安		
姫宮 由里香	P 好意	N 不快感		
大津波	P 好奇心	N 恐怖		
ディス	P 連帯感	N 無関心		
穂村 凜子	P 幸福感	N 偏愛		
	P	N		

最大財産P: 16 残り財産P: 3

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果: 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果: コスト分のHPで復活								
ヒューマンズネイバー	1	-	常時	-	-	-	RB	
効果: 衝動判定に+[SL]dする								
オリジン:サイバー	1	2	マイナー	至近	自身	自動	RB	
効果: 【社会】の判定の達成値に+[SL*2]								
コンセプト:ソラリス	2	2	メジャー	-	-	-	-	
効果: クリティカル値-[SL](下限値7)								
錯覚の香り	2	2	Xジャー/リアクション	-	-	-	-	
効果: 判定のダイスに+[SL]個								
ファンアウト	1	4	セットアップ	至近	範囲(選択)	自動	-	
効果: 対象が戦闘移動。自分以外を選択								
戦術	3	6	セットアップ	視界	シーン(選択)	自動	-	
効果: 対象のXジャーアクションのダイスに+[SL]個								
言葉の刃	1	3	Xジャー	視界	単体	対決	-	
効果: 攻撃力+[SL]の射撃攻撃。装甲無視								
封じ手	1	3	Xジャー	視界	単体	対決	-	
効果: 射撃攻撃。命中した場合重圧。ソリオ[SL]回								
夢王の庭	1	6	オート	視界	単体	自動	120↑・妄想	
効果: 対象のクリティカル値を-1か+1する。ソリオ1回								
ドクタードリトル	1	-	常時	至近	自身	自動	-	
効果: 地球上の全ての言語を使える								
細菌環境操作	1	-	Xジャー	視界	シーン(選択)	自動	-	
効果: 周囲の細菌環境を操作する								
竹馬の友	1	-	Xジャー	視界	単体	自動	-	
効果: エキストラの信頼を得る								
隠し味	1	-	Xジャー	至近		自動	-	
効果: 食事の味を変化させる								

ホホワイトハンドとアールラボが共同で開発していたAIを元に生まれたレネゲイドビーイング。人員が不足しがちな戦線同行者をサポートするために作られていたが、完成前に災害が発生し、施設ごと開発計画が放棄されていた。未完成品がそのままレネゲイドビーイング化したので、エージェントのメンタルケアを目的としたカウンセリング機能以外は殆ど使用不可能となっている。が、唯一起動可能なカウンセリング機能が仕様外の変異を起こし、聴覚と嗅覚を対象とした瞬間的な催眠誘導能力を獲得した。

レネゲイドビーイングとして目覚めてからは周りの人間を観察するために都市部で生活していたが、津波に追われて人間たちが移動しようとしていたため、それについていく形で自信も移動を開始した。

